

様式3

令和6年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（ 21 ） 学校名 豊田市立大畠小学校

1 テーマ

進んで伝え合い、認め合い、深め合える心豊かな大畠っ子の育成
～縦割り活動での協働学習、地域との連携や交流活動を通して～

2 ねらい

- ① 縦割りのなかよし班での交流活動を通して、自分や友達、学級や地域のよさに気付き、思いやりの心を育てることができる。
- ② 地域の人材を生かし、体験活動や協働学習を進める中で地域の自然や芸能、歴史等について関心をもち、自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力を育てる。
- ③ 心の悩みや不安をもつ子どもたちや、子育てに悩む保護者の相談活動を通して、子どもたちや保護者の心の安定を図る。

3 活動内容

- ① 1年生から6年生で縦割りのなかよし班を作り、通年で活動する。学校マスコットキャラクター「ばたっぴい」を通して、全校で地域や学校のよさを認識し、郷土愛を深める。
- ② 地域の自然や歴史について、地域の人材等を生かして、学習活動や交流活動を進めたり、各教科領域等の学習活動において、知識・理解や技能等の習得の支援を図ったりする。理科や生活科、総合的な学習の時間等に、学区の豊かな自然やシンボル施設（大畠の森）、栽培園等を有効活用して、自然に親しむとともに、体験や交流活動を行う。
- ③ 教員と心の相談員とが、常日頃から子どもたちの様子について情報を共有して指導に当たる。また、月毎に心の相談員、教育相談コーディネーター、SC、校務支援員による教育相談会を開催し、子どもたちの様子を共有することで問題の未然防止や、早期の問題解決に努める。

4 成果と課題

- 高学年が中心となって縦割り班活動を行った。毎日の縦割り清掃、年に6回開催するなかよし班遊び、大畠フェスティバルでの競遊、なかよし遠足、なわとび大会と活動を共にすることで、児童同士の絆が深まった。
- 5年生は、大畠小学校マスコットキャラクター「ばたっぴい」を活用して、「ラリーJAPAN」を応援した。「ばたっぴい」と一緒に豊田スタジアムへ出向き、自

分たちで作成したラリーの応援のチラシや、「ばたっぴい」とラリーのコラボ缶バッヂを配布した。ラリーの応援に加えて大畠地区と「ばたっぴい」のよさを広める活動ができたことで自己有用感が高まった。

○6年生は、卒業制作として、学区に住んでいる陶芸家の方を講師に招いて、大畠小学校のマスコットキャラクター「ばたっぴい」の絵皿を作った。また、陶芸家としての喜びや苦労について話を伺った。これらの活動を通して、自己を見つめる機会となった。

○1年生は、6年生から「ばたっぴい」の折り紙の作り方を教えてもらう活動を行った。子どもたちが図画工作科や生活科等で「ばたっぴい」の絵を描いて地域に発信したいという思いが芽生え、主体的に活動に取り組むことができた。

○栽培園を活用する学習により、自然への愛着が増し、環境を守ろうとする気持ちが高まった。あおば学級は1年を通して野菜を栽培することで、日々の世話を主体的に行い、収穫する喜びを感じることができた。地域ボランティアの方々と一緒に、6年生と1年生が野菜の苗を植える活動では、地域とのつながりを感じることができた。また、6年生が1年生に優しくやり方を教える場面も見られ、互いに繋がりを感じられる時間となった。

○校内整備員が栽培園等の整備を行うことで、担任の活動への準備時間が確保できた。また、校地内の草刈りや落ち葉掃きなどを行うことで、児童は校地内で安心して活動をすることができた。児童は活動を支える人への感謝の思いを高め、「畑を耕したり、草取りをしたりしてもらえたので、おいしいサツマイモができました」「ピーマンやトマトがたくさん実ってうれしかったです」と、感謝の気持ちを手紙に書いた。

○児童が、担任だけでなく心の相談員にも困ったことや悩みを相談することができたので、児童の困り感の早期発見・早期対応につながった。スクールカウンセラー、心の相談員、教育相談コーディネーター、教育相談主任、校務支援員が毎月1回「教育相談会」を開催した。また、保護者が子育てについて気軽に相談することができた。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・ホームページを毎日更新し、各学年の活動のねらいや様子を掲載した。保護者からは、「毎日学校ホームページを見るのが楽しみです」「うちの子が、いい表情で載っていてうれしいです」と高評価をいただいている。
- ・学年通信や学校だよりで、特色ある学校づくり推進事業に関わる生活科・総合的な学習の時間のねらいや成果を保護者や地域に伝えた。
- ・学習発表会で、特色ある学校づくり推進事業に関わる生活科・総合的な学習の時間の取組を発表した。(全学年)